●子宮頸がんの年齢階級別罹患率(上皮内がんを含まない)



数・死亡数ともに近年増加傾向にあり ます。子宮頸がんの罹患率は20歳代後 約2800人が死亡しており、患者 人が子宮頸がんと診断され、そのうち

その後横ばいになります。若い世代で 半から増加し、40歳でピークを迎え、 罹患の増加が問題となっています。

市役所内

ほとんどの方は数年以内に自然消失 と言われます。感染しても一過性で

☎23-3515 FAX 23-3810 あつみライフランド **☎**33-0386 **№**33-0319

> の 50 く ウイル

80 % は

一生に

一度は感染する

連します。HPVは皮膚や粘膜にいる

、スで、性交渉の経験がある女性

子宮頸がんを予防しよう

日本では1年間で約1万1

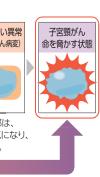
Ō

Ō

0

✓子宮頸がんの原因

ローマウイルス(HPV)の感染が関 子宮頸がんの95%以上は、ヒトパピ



80

84

性的接触による感染 HPV 正常の子宮 頸部の細胞 HPVが感染した 細胞の軽い異常 細胞の強い異常 (軽度前がん病変) 子宮頸部の細胞 (高度前がん病変) 成人女性の大部分は HPVに感染した女性の一部は、 HPVに感染します。 子宮頸部異形成という病気になり、 悪化するとがんになります。

> 現れないため、子宮頸がん検診の受診 度前がん病変に進行する場合もあり す。しかし、さらに強い異常である高 て、前がん病変(※)を経てがんに進行 ※現状ではがんと言えないが、がん によって発見することができます ます。これらの病変は一般的に症状が し、数年から数10年の長い時間をかけ します。ごく一部の方は感染が持続 んに進展せず、 します。軽度の前がん病変の8%は に進行する確率が高い状態のこと 部は自然消失しま

☑子宮頸がん検診について

齢は、今年度末時点で20歳から79歳ま 子宮頸がん検診を実施しています での方で、2年に1回検診を受ける 療機関にて無料で実施します。対象年 まで、市内および豊橋市内の ことができます。また、妊婦健診でも 本市では、6月から令和4年1 指定医 月末

ⅥHPV検査について

HPV検査(自己負担額2000円 子宮頸がん検診のオプションとして

> できます。 を実施しています。検診対象者で25歳 から65歳までの希望者が受けることが

7市ですが、その中で本市は2番目に 高いことが分かります。 HPV検査の受診者が多く、子宮頸 検査を実施しているのは本市を含めて 回の検診で2種類の検査ができます。 染の有無を調べることができます。 採取して、HPVを検出することで感 んやがん予防に対する市民の意識 様に子宮頸部から専用器具で細胞 令和元年度の時点で、県内でHPV 検査内容は、子宮頸がん検診 ع

☑子宮頸がんワクチンについて

3回の接種が必要です。接種対象 です。HPVの中で、特に発がん性が高 です。詳しくは市HPをご覧ください。 中学1年生から高校1年生相当の方 ます。ワクチンは2種類あり、それぞれ いウイルスに対し有効なワクチンで、 70%の予防効果があると言われてい もう一つの予防策はワクチンの接 は、

を2年に1度は受診しましょう。 た、20歳を過ぎたら、子宮頸がん検 すので、 を希望する場合は、予診票を発行しま 人と保護者が十分理解した上で接種 ワクチンの安全性・副反応などを本 健康課にご連絡ください。ま